

ACTIVITY

年間活動 団体の動き

- 1月 中原健聡が代表理事就任
9期生春募集①エントリー開始
- 4月 9期生春募集②エントリー開始
- 6月 9期生夏募集エントリー開始
- 7月 新型コロナ対策研修実施
- 8月 EduHubの立ち上げ
未来の学校みんなで創ろう。プロジェクト始動
9期生秋募集エントリー開始
- 9月 9期生募集締め切り（過去最多の応募）
加賀市との包括連携協定締結
- 10月 教師の日イベント
Teach For All Global Conference@online

年間活動 フェローの動き

- 2月 8期生自治体面談
- 3月 6期生修了
8期生赴任前研修修了
- 4月 8期生赴任（39名）
7期生2年目スタート（2名）
- 6月 9期生研修スタート
- 7月 集合研修（TFJ理解）
- 8月 集合研修（自分史・模擬授業）
- 9月 集合研修（模擬授業・ビジョン）
- 10月 集合研修（模擬授業）
- 11月 集合研修（模擬授業・ビジョン）
- 12月 集合研修（模擬授業・感覚統合）
※集合研修は、状況に応じて
オンライン / オフラインを使い分けて実施しています。



Facebook

<https://www.facebook.com/TeachForJapan/>



Twitter

<https://twitter.com/TeachForJapan>



Instagram

https://www.instagram.com/teach_for_japan/



YouTube

<https://www.youtube.com/user/tfjmovie/featured>

メルマガ

https://go.teachforjapan.org/_mailmagazine.html



団体名称 認定特定非営利活動法人 Teach For Japan

所在地 〒105-0004 東京都港区新橋 6-18-3 中村ビル 4 階

連絡先 TEL: 03-6435-8031
MAIL: info@teachforjapan.org

設立 2010 年 9 月 1 日

スタッフ 20 名（うち常勤 12 名・非常勤 8 名）※2021年1月31日現在

役員
代表理事：中原 健聡（Teach For Japan CEO）
理事：松田 悠介（Teach For Japan 創設者）
理事：川島 健資（元ドイツ証券株式会社取締役副会長）
理事：桜井 一正（株式会社ボストンコンサルティンググループ）
理事：白石 智哉（ソーシャル・インベストメント・パートナーズ 理事）
理事：田中 満公子（大阪教育大学教職大学院 特任教授）
理事：三尾 徹（株式会社ミオアンドカンパニー 代表取締役）
監事：齋藤 宏一（アンダーソン・毛利法律事務所パートナー、弁護士）

寄付について

マンスリー・サポーター

月々 1000 円から、継続的にご支援いただく方法です。

ワンポイント・サポーター

1 回 1000 円から、その都度ご支援いただく方法です。

法人サポーター

貴社・貴団体にあった形で、ご寄付・ご協賛・ご支援いただく方法です。

遺贈・その他

遺言により財産を特定の団体などに無償で寄付する遺贈や古本の寄贈、ハチドリ電力を通じてご支援いただく方法もあります。

<https://teachforjapan.org/supporter/>
詳しくは WEB サイトをご覧ください ▶



Annual Report 2020



教室から世界を変える

Teach For JAPAN

VISION

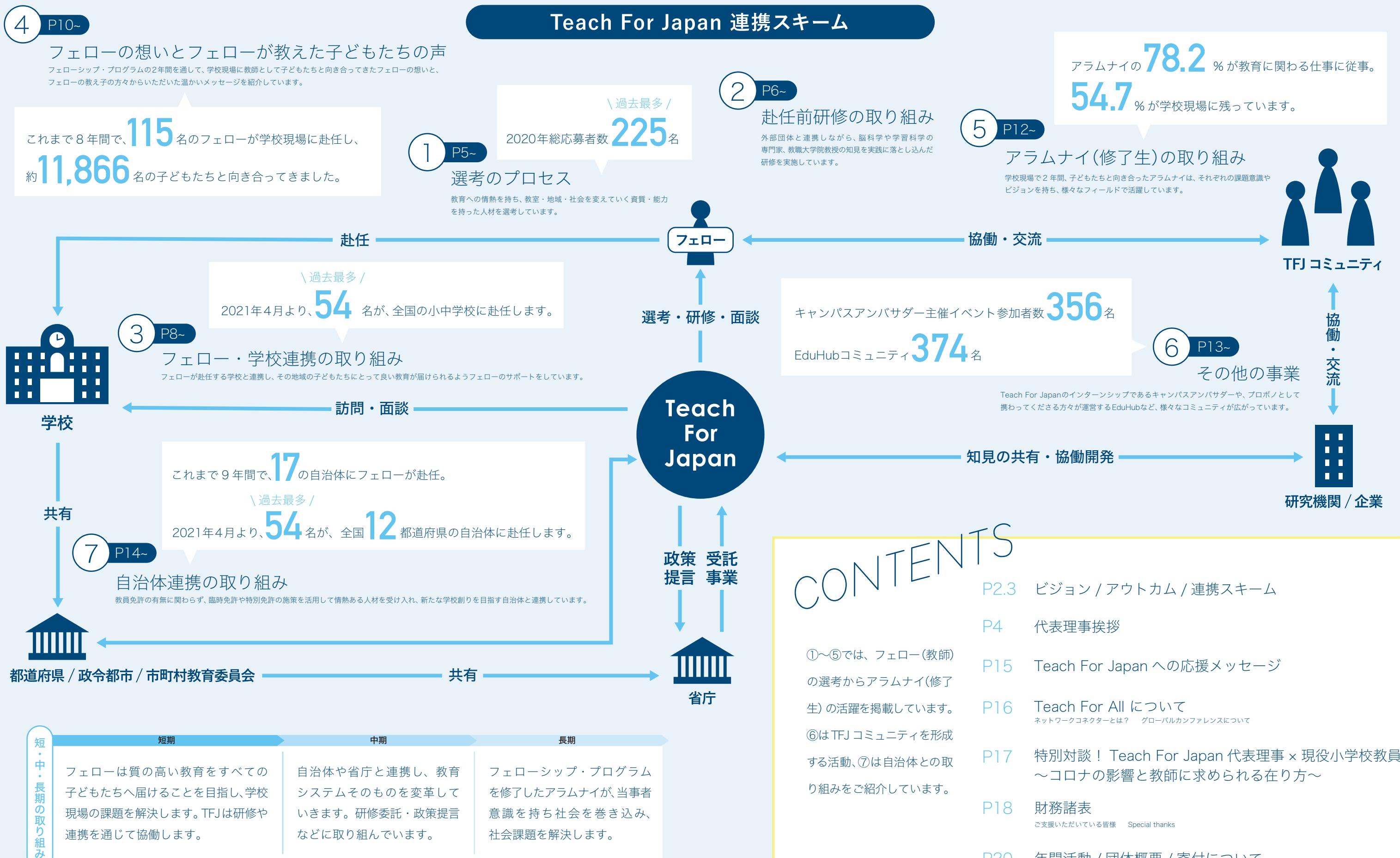
すべての子どもが、素晴らしい教育を受けることができる世界の実現を目指します。

SLOGAN

教室から世界を変える

フェローシップ・プログラムを通じて、学校現場の教育環境・機会格差などの課題を解決します。

Teach For Japan 連携スキーム



CONTENTS

①～⑤では、フェロー(教師)の選考からアラムナイ(修了生)の活躍を掲載しています。
⑥はTFJ コミュニティを形成する活動、⑦は自治体との取り組みをご紹介します。

- P2.3 ビジョン / アウトカム / 連携スキーム
- P4 代表理事挨拶
- P15 Teach For Japan への応援メッセージ
- P16 Teach For All について
ネットワークコネクターとは？ グローバルカンファレンスについて
- P17 特別対談！ Teach For Japan 代表理事 × 現役小学校教員～コロナの影響と教師に求められる在り方～
- P18 財務諸表
ご支援いただいている皆様 Special thanks
- P20 年間活動 / 団体概要 / 寄付について

代表理事挨拶



中原 健聡
Takeaki Nakahara

2020年はTeach For Japan が活動を始めて10年目を迎え、チャレンジングな1年となりました。学校現場は新学習指導要領、GIGAスクール構想、令和の日本型学校などの改革方針を打ち出しましたが、新型コロナウィルス感染症への対応で逼迫し、その状況は最終的に子ども達の学習環境に影響しています。この現状を根本的に解決し、子ども達にとってより良い公教育を実現するには、自治体と民間の協働による学校現場の課題解決と、本質的な学校教育の在り方を現場から実現していくことが重要であると考え、自治体とより強いパートナーシップを結び、課題解決に取り組んで参りました。その結果、2021年4月より新たに赴任するフェローは過去最大の54名となり、現場で活動するフェローは89名になります。新規に連携する自治体も増え、赴任先は計12都道府県となります。また、2020年9月には、自治体とフェローシップ・プログラムを軸とした包括連携協定を結ぶなど、TFJの活動が加速していると感じています。ここまで進めてこられたのも、皆様のご支援、ご協力の賜物であり、改めて感謝申し上げます。2021年も我々のVisionである「すべての子どもが、素晴らしい教育を受けることができる世界の実現」に向け、精一杯取り組んで参りますので、引き続き皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

profile

2011年に大学卒業後、スペインへ渡り 3 年間サッカー選手としてプレー。サッカー選手時代に行ったキャリア教育での講演活動を機に、人が育つ環境をデザインすることをMissionに活動を開始。2014年に帰国後、大学事務職員、Teach For Japan フェロー、私学の高等学校の学校開発・経営に従事。キャリアを歩む中で、学校教育において「人」が最も教育効果に影響することに気付き、その「人」を育成して学校現場へ配置するTFJフェローシップ・プログラムが、日本が迎えている教育改革やこれからの社会作りに大きく貢献できると考え 2019年4月より、理事・CEOとして着任した。2020年1月に代表理事に就任。

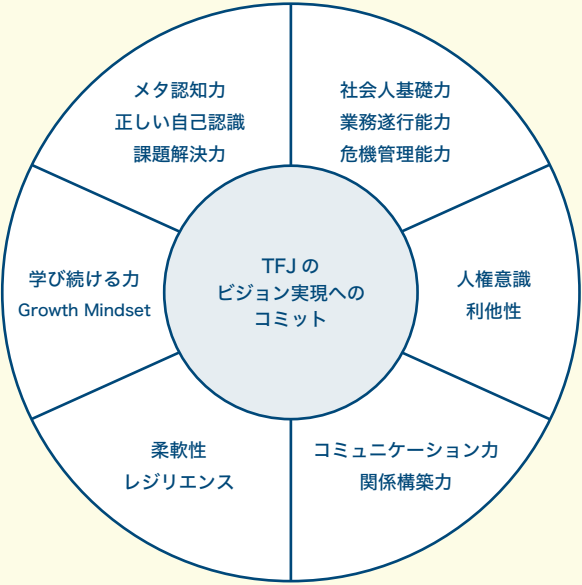


選考のプロセス

教育への情熱を持ち、教室・地域・社会を変えていく資質・能力を持った人材を選考しています。

TFJの考える、フェローに必要な資質・能力に基づいた選考

優れた教師やリーダーが備える
素質、行動特性（コンピテンシー）
について、Teach For America
のノウハウに加え、国内外の知見
や専門家の意見を取り入れて選考
基準を作成。さらに、日本の教育
現場や実態に沿ったものになる
よう常にブラッシュアップして
います。これらに基づいて候補者
を選考します。
※選考基準やプロセスは、改善や
見直しにより変更になることが
前提です。



STEP 選考の流れ

説明会

Teach For Japanのビジョンや事業内容などについてよく理解していただくために、まずはオンライン説明会にご参加いただきます。

エントリー

フェローになるための第一歩は、Webサイトからのエントリーです。ご経歴や志望動機をご記入いただくエントリーシートと、ご自身を紹介していただく動画をご提出いただきます。

書類・動画選考

提出していただいた内容をもとに、TFJのビジョンとのマッチングや、教師としての適性などについて検討させていただきます。

選考会

選考会では、グループワークや個別面談、学力テストなどを通じて多面的に評価をさせていただきます。教育への情熱や課題解決への意欲、教師の仕事への適性、さらに今後の成長への期待値などを考慮して、総合的に判断させていただきます。

赴任前研修

選考を通過した方には、最長9ヶ月間の研修に参加していただき、赴任に向けての準備に取り組んでいただきます。

赴任前研修の取り組み

外部団体と連携しながら、脳科学や学習科学の専門家、教職大学院教授の知見を実践に落とし込んだ研修を実施しています。

また、赴任前研修は、オンライン研修、集合研修、職員との面談、ICT ツールを活用した日々の交流、カルテを使った振り返りで構成されており、最大で110時間以上の研修を行っています。

Training by Teach For Japan

自己成長力

自分の強みと弱みを認識し自己理解を深め、学校現場で自分らしく他者と共働するための土台を築く。

自分の信念や強み理解に基づいたビジョンを言語化し、具体的な教育実践に落とし込む。

課題を把握し、解決に向けた計画を立て、実行し、振り返るというサイクルを繰り返し、学び続ける力を身につける。

成長や変化を楽しむことができ、他者からの指摘も良い材料と捉えることができる。また、過去に囚われず、未来志向で考えることができる。

自分史
(深い自己認識のワーク)

ビジョンセッション
(ビジョンギャラリウォーク)

振り返り

フェローカルテ /
個別面談 / 計画設計

社会人基礎力

業務遂行能力、柔軟性、レジリエンス、課題解決力など職務を遂行するために必要な基礎力。また、他者と関係を築きながら目的に向かって協働していく力を身につける。

社会人マナー・スキル

企画研修

グループワーク

赴任前研修の特徴

- ・学びのコントローラーは学び手が握る
- ・フェロー・アラムナイコミュニティの活用
- ・ICTの活用 (Zoom, Slack, Google クラウドルームなど)

Training by 外部団体

社会課題解決力

外部団体とも連携し、様々な切り口から社会問題や教育課題、そしてこれからの教育の在り方などについての知見を得る。

STEAM教育	Makeblock Japan 株式会社様
性教育	染谷 明日香様 (NPO 法人ビルコン 理事長)
特別支援教育 (感覚統合)	高畑 脩平様 (藍野大学)
PBL	川村哲也様 (株式会社COLEYO)
ICT活用	株式会社すらんネット様
ジョリーフォニックス	岡本多永様 (5 期アラムナイ / 教育と探求社)
コーチング	小野孝太郎様 (4 期アラムナイ / シリコンバレー教育研究会)

▼他にも、様々な切り口から知見を得る研修を実施しています。
LGBTQ、主権者教育、SDGs・ESD、イエナプラン、「学び合い」

視野を広げる研修

エビデンスに基づく研修設計

元フェロー＆教員の視点



認定 NPO 法人 Teach For Japan
フェローシップ・プログラム運営チーム
赴任前研修担当

松尾 啓司

Teach For Japan のビジョンである「すべての子どもが、素晴らしい教育を受けることができる世界の実現」を目指して、本年度も赴任前研修を行いました。今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、Zoom や Slack、Google classroom などの ICT を存分に活用しながら、オンラインだからこそできる研修を創ってきました。当初は不安もありましたが、候補生の熱意をベースに、今ではオンラインだからこそ熱い対話ができていると思います。また、今年度から株式会社 DAnCing Einstein 代表の青砥さんと一緒に、脳神経科学の知見をいただきながら、心理的安全やハピディテ (Happy detection) を具体事項として、教員の Well-being を目指して進んできました。新たな視点から教員のあり方や仕事を考えることはとても新鮮であり、かつエビデンスを基に研修を行うことは、候補生だけでなく私にとっても刺激的な研修となっています。ここでの研修は出発点にしか過ぎません。ここからがすべての始まりです。今まで得たこと総動員し、目の前の子どもたちに全力で向き合っていってほしいと思います。

1988年福岡県生まれ。福岡教育大学大学院教育科学専攻技術教育コースを修了後、NPO法人アジア太平洋子ども会議・イン福岡にてプログラムコーディネーターとして勤務。福岡に住む子どもたちを海外に派遣するプログラムなどに従事。その後、Teach For Japan 第4期フェローとして、福岡県北九州市の小学校に赴任し、フェロー期間を含め3年間、小学校教員として勤務。その中で、自身のバックグラウンドを活かしながら、多様性を認め合う教育を志す。京都市内の私立学校での勤務を経て、2020年4月より当団体の職員となった。

脳神経科学の視点

「賢いものや強いものが生き残るのではなく、変化できるものが生き残る」進化論を唱えたダーウィンは教えてくれています。来たる時代に教育も変化が求められるでしょう。もちろん、過去も今も未来も大切な学びはあります。それを進化させつつも、新しい教育のあり方も模索する必要があります。では、TFJ と DAE はどんな教育を目指すのか？ それはまず、この変化の渦、不確実性に、心を曇らせるのではなく、むしろその不確実をチャンスと、可能性と捉えられるような教育を軸に据えています。そのために必要な教員の学びを、脳神経科学の知見からデザインしています。心理的安全性、メタ認知、グロースマインドセット、Well-being など。これらの能力を育み、幸せな子を育てるのではなく、どんな境遇にいても幸せになれる子の育みに携わらせていただけたらと思っています。



株式会社
DAnCing Einstein 代表
青砥 瑞人

日本の高校を中退後、渡米。米国の UCLA (カリフォルニア大学ロサンゼルス校) にて神経科学を学び、2012年に飛び級卒業。帰国後、2014年に DAnCing Einstein を設立。脳 × 教育 × IT の掛け合わせで、世界初の「NeuroEdTech」という分野を立ち上げ、多数の特許を取得。脳神経科学の最先端の知見を人材開発や教育の分野に応用するプロジェクトを多数手がける、いま注目の脳・神経科学者。ヒマさえあれば医学論文を読み漁る脳ヲタでもある。著書に「BRAIN DRIVEN」(ディスカヴァー・トゥエンティワン)がある。

教職大学院教授の視点



大阪教育大学教職大学院 特任教授 / 大阪
教育大学附属天王寺中学校 校長、附属高
等学校天王寺校舎 校舎主任、TFJ 理事
フェロー育成研修アドバイザー

田中 満公子

「教室から世界を変える」という想いを、形に変えることができる力をつけていただきたい。つまり、教師としての「知識とスキル」、社会人としての「人間性」と授業者や担任としての「実践力」、それらを含めた自分自身や赴任校の状況をしっかりと「メタ認知」することができる力です。なぜなら、その4つの力をできるだけバランスよくもつことが、変革期の教師には求められていると考えているからです。フェローならば、きっとその力を磨いてくれると思っています。また、学校現場はジレンマに満ちあふれています。想いをもって赴任しても、時には壁にぶつかることもあるかと推察します。そんなときこそ、自分を大きくするチャンスです。自らの正しさを超えて、同僚から、子どもたちから、状況から学ぶことはあるのだろうかという姿勢で取り組んでいただきたい。遠回りのようですが、それが「教室から世界を変える」確かな一歩になるかも知れません。

早稲田大学教育学部卒業。三重県と大阪府の高校で教諭として勤務した後、教頭として1校、校長として3校に勤務。その間、大阪府教育委員会に副理事として2年間勤務。現在は、大阪教育大学教職大学院にて、次世代教員リーダーを養成している。兼務で、附属中学校と高校において管理職として次世代の子どもたちの育成にかかわっている。また Teach For Japan の理事、フェロー育成研修のアドバイザーとして、研修開発に取り組む。

VOICE

9期フェロー候補生の声



東 優花

Durham University
新卒

多様なバックグラウンドから集まったフェロー候補生の方々と話し合いを通し、グローバルな視点から物事を考えられるような教育を教室に取り入れるには、どうしたらよいかを考える機会をいただきました。



大林 凌也

立命館アジア太平洋大学
新卒

現在働く学校現場で、特別支援や感覚統合など (TFJ 研修内容) の視点をもちて生徒と関わることで彼らの「心の声」が聴けるようになりました。研修を通して「生徒の心の声に耳を傾けられる先生になりたい。」そう考えるようになりました。



畠山 彩音

昭和女子大学
新卒

研修では授業づくりのテクニックに加えて、教職課程だけではカバーできない STEAM 教育や感覚統合などの、プラスαで知っておきたい知識を得ることができました。十人十色な同期とともにさらに学びを深め合えています。



水野 光

日本体育大学
新卒

様々なバックグラウンドをもった教育に熱いフェローと、実践的な研修や模擬授業を通してこれからの教育を考えていくのでとても楽しいです。教育課程では深く取れない性教育や感覚統合などの研修があるのでとても力になります。



水上 えり子

東京藝術大学大学院
新卒

研修の最大の魅力は、様々なバックグラウンドを持つ候補生との出会いだと感じています。自分とは違う経験や価値観を持ちながらも同じ志を持った仲間との議論や模擬授業、勉強会を通して、自分自身の課題や強みを発見し、学び続けることができています。



松井 寛人

東邦大学
新卒

TFJ の研修の魅力は、様々な経験をしてきたメンバーがそれぞれ熱い想いを持ちながら互いの良さを生かしあい、認め合いながら学ぶことができることです。さらに授業だけでなく教室運営に必要な力や子どもたちと向き合う姿勢を学べ、教師という職業に自信を持つことができました。



鈴木 里奈

常葉大学
小学校非常勤講師

教育に関する幅広い知識や技能を、アラムナイや現役教員、専門家の方から学べる素晴らしい環境があります。多様なバックグラウンドを持つ候補生との対話を通して、自身のビジョンや教育に対する考えを多角的に深めることができました。



阿竹 隼那

学習院大学
近鉄グループホールディングス株式会社

研修では教育分野のみならず、課題解決の思考法やSDGs、LGBTQなど様々なテーマについて学びます。研修全体を通じて、人が幸せに生きていくことの本質を問いながら、自分自身のビジョンをデザインしていける研修内容だと感じています。



大川 唯

慶應義塾大学
Kinder Kids International Preschool Pte. Ltd

研修では、知識や情報をただ受け取るだけではなく、同期の皆さんと対話をしながら「学びを深める」経験ができました。様々なバックグラウンドと熱意のある仲間から刺激とやる気もらい、一人では気が付かなかった新たな発見がたくさんありました。



庄子 貴喜

関西大学
箕面市役所

幅広い年代、多彩な視座を持った候補生との出会いが、この研修の一番の魅力だと感じています。教育に対して真摯に熱く対話ができる TFJ の仲間との存在は、プログラムの期間だけでなく、一生モノだと確信しています。



大竹 まりな

中央大学
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

研修プログラム以外にも自主的な勉強会や模擬授業を行っています。活動を通して互いの経験や想いをシェアすることで、なぜフェローシッププログラムに参加するのか、どんな教員でありたいかを問い続けるモチベーションとなっています。

フェロー・学校連携の取り組み

フェローが赴任する学校と連携し、その地域の子どもたちにとって良い教育が届けられるようフェローと協働しています。また、フェローが大切にしている 5 つの行動指針と課題に果敢に取り組むフェローの実践をご紹介します。

赴任状況

東京都 4 名 奈良県 2 名 大分県 1 名
埼玉県 3 名 大阪府 3 名 熊本県 3 名
千葉県 1 名 福岡県 18 名 長崎県 2 名

学校数 37 校 (22 小学校 / 15 中学校)

8 期生

(35 名)



小島フェロー
(東京・小学校)



森清フェロー
(長崎・小学校)



吉崎フェロー
(長崎・小学校)



岸本フェロー
(福岡・中学英語)



憶フェロー
(福岡・小学校)



見汐フェロー
(熊本・小学校)



山本フェロー
(福岡・小学校)



小林フェロー
(福岡・中学英語)



辻フェロー
(福岡・中学英語)



太田フェロー
(埼玉・中学理科)



魚取フェロー
(福岡・中学社会)



友弘フェロー
(大阪・小学校)



岩淵フェロー
(千葉・中学技術)



北崎フェロー
(福岡・小学校)



伊藤フェロー
(大阪・中学英語)



堀フェロー
(大分・中学体育)



鈴木フェロー
(東京・小学校)



鈴木フェロー
(埼玉・中学英語)



高瀬フェロー
(福岡・小学校)



岩本フェロー
(大阪・中学数学)



瀧本フェロー
(福岡・小学校)



平賀フェロー
(福岡・小学校)



山下フェロー
(福岡・中学英語)



松岡フェロー
(埼玉・小学校)



黒澤フェロー
(福岡・中学校)



筒井フェロー
(福岡・中学体育)



伊藤プラダハンフェロー
(奈良・小学校)



野島フェロー
(福岡・小学校)



衛藤フェロー
(福岡・小学校)



赤木フェロー
(福岡・小学校)



中野フェロー
(熊本・小学校)



内山フェロー
(奈良・小学校)



濱中フェロー
(東京・小学校)



大久保フェロー
(東京・小学校)



朝井フェロー
(熊本・小学校)

フェロー行動指針

- ・可能性を信じること
- ・教室に根ざし、社会に開くこと

- ・学習者であり続けること
- ・自他を尊重すること
- ・協働すること

FELLOW'S CHALLENGE!

課題に果敢に取り組むフェロー

『学び合い』でお互い様な関係作りを目指して

毎日授業をする中で、自分と他者との違いを認め合い、1人で頑張るのではなく支え合うことを大切にしてほしいと思うようになりました。そのために、一人一人が交流する『学び合い』を授業設計に取り入れて、環境作りに力を入れています。例えば、グッと考えないと分からないような、モヤモヤ感をみんなに共有したくなる課題を取り入れ、ねらいに段階を設けてネームプレートを貼り、誰がどういう状況なのかを可視化しています。『学び合い』を実践することで、「〇〇さん教え方分かりやすい!」「教えてくれてありがとう」「分からないから教えて」という発言が授業でみられました。また、コミュニケーションを取るのが苦手な子が自分から話しかけるようになるなど、他者との交流があるからこそ一人一人成長しているなど感じています。これからも子どもたちが成長できるよう、『学び合い』を実践していきます。



岩本恵里 (8 期・中学校数学)

私が関わっている国際学級は、外国人児童に多様な教育の機会を提供するため、通常の学級に外国人児童を受け入れるESC (English Support Course) を設置し、ESC 児童に対してクラスの授業を日本語から英語に翻訳したり、国語と算数を英語のみで行ったりというサポートをしています。国際学級担任として、外国籍の児童のみで行う日本語の授業では、教室でよく使われる言葉を練習したり、新しく習った漢字を使って文章を考え日本語で言ってみたりという活動を通して日本語力をつけ、児童が少しでも学校生活を安心して過ごせるようになるための授業づくりを意識しています。国籍や言語は違って、授業の中でお互いの意見をうなずきながら聞いていたり、「私も同じだ」と共感したり、それぞれの違いを活かして学び合い、つながりを形成している子どもたちを見てると大きな期待を感じます。子どもたちが日々の生活の中で他者との「違いから学べる」人になるように関わっていけたらと思います。



鈴木颯 (8 期・小学校国際学級)

違いから学べる国際学級に挑戦

PBLL の推進

私は中学校英語科担当として赴任しました。そこで最初に感じたのは、「自分の教室の生徒が、自分の未来を国際的な視点で捉える機会が少ない」という課題。英語

の授業の中でそうした機会を作れないかと模索していた時に出会ったのが PBLL でした。まずは夏休み中、在福岡米国領事館のユキ・近藤・シャー広報担当領事を学校にお招きし、生徒との交流会を開催しました。生徒は外交官やリーダーシップ、英語や留学をテーマに領事と議論しました。領事を前に母校や地域の魅力を英語で発信する生徒の様子はまさに「主体的・対話的で深い学び」の象徴でした。さらに同年12月には、英語科授業の集大成として English Presentation を開催し、生徒は「2030年までにSDGsを達成するためのアクションプラン」を英語で発表しました。同領事館のジョン・C・テイラー首席領事がビデオメッセージで生徒を激励し、近藤・シャー広報担当領事もオンラインでその様子を見守りました。なんと優勝チームは、後日領事館に招待(予定)されることに! 英語を使って何が出来るか? という問いを生徒に投げかけてくれるPBLL。そこから多くを学んだ生徒たちが、これからの日本と世界の架け橋になってくれることを期待しています。*PBLL (Project Based Language Learning) は、子どもたちが英語でプロジェクトに取り組んで、その過程で実践的な英語の知識・技能を身につけていくという学習スタイル。

英語が通じる喜び、楽しさを目指して



伊藤プラダハン信美 (8 期・小学校専科)

小学校専科として赴任して、全学年の英語を担当しています。赴任した小学校は、全校児童が62名の学校。もっと世界を知ってほしいと思い、ネパールの10歳の小学生とオンラインでつなげて交流授業を行ったり、アメリカ留学していた地域の高校生を招いて留学生生活を共有してもらった授業を行ったりしました。子ども達からは、「質問を何度も練習した」「また来てほしい」という前向きな声が多く見受けられました。私自身、英語を使って仕事をしていた経験から、英語を通して友達が増え、仕事の幅も広がる楽しさを感じていました。だからこそ、小学校段階で英語に親しむだけではなく、英語が通じる喜び、楽しさを学んでほしいと思っています。また、近隣の英語教員の方々に声をかけたことがきっかけで、学び合えるコミュニティができました。そこでは、SlackというICTを活用しながら、作成した教材を共有、研修情報の交換など意欲的に活動しています。



黒澤永 (8 期・中学校英語)

フェローの想いとフェローが教えた子どもたちの声

子どもたちと向き合ってきたフェローの想いと、フェローの教え子の方々からいただいた温かいメッセージを紹介しています。

北先生は、今まで会ってきた先生の中でもいい意味で変わった先生だなと感じました。僕たち生徒に、全力で人生の大切なことを教えてくれました。特に「信頼」について大きな学びを得ることができました。先生が僕たちを信頼してくれていたので、学級会などをはじめとした様々な話し合いを自分達に任せてくれました。僕が友達を信頼して生きていきたいと思ったのも、北先生や色々な大人から、信頼の大切さを学んだからだと思います。



北フェロー教え子
I.T さん

北 敢フェロー
(6期・小学校)



なりたい姿を見つける教室、地域、世界

「世の中に多様なロールモデルを」というビジョンを基に、子どもには様々な大人と会わせ、自分自身の「なりたい姿」を見つけてほしいと思い、日々全力で活動をしてきました。様々なことを吸収して成長する子どもたちを見ると、より多くの物、事、人に触れてほしいと思うようになりました。自分達で目標を定め、それに対して一生懸命活動をする子どもを信頼し、失敗を見守る。先生自身が全力で人生を楽しみ、子どもたちには寄り添いながら信じ続けることが大切なのだと学ばせてもらいました。

「This is me」「This is us」「どんな自分になりたいか？」を、クラスのテーマにあげて渡辺先生は1年間私達に問い続けました。どんな風に生きていったら良いのか、私はいったい何なのか？... 見失いそうな事もある中で、一人一人の悩みや喜びを自分の事以上に感じ共感してくれる先生との毎日は宝石のようにキラキラと輝いています。プリンストン大学出身のゆうた、南極に冒険しているあべちゃんとの出会いも作って下さり、この広い地球で色々な考えを持つ人々、また沢山の可能性を感じ私達の未来がパァーッと広がっていくような感動がありました。先生が問い続けた「This is me」はこの苦しいコロナの中で決してぶれない私の目標であり、心の一番深い部分で輝き支えとなっています。



渡辺フェロー教え子
M.M さん



渡辺 香フェロー
(5期・小学校)

なりたい自分を問う

子どもたちが成長する過程で、人と自分を比べたり、人との違いに戸惑いや不安を感じたりすることもある。そんな時に立ち返ることのできる人生の軸となるものを残したい。それが「どんな自分になりたいか」という問いであり、日々の教育活動の原点でした。子どもたちとの合言葉は、『This is me & us』これから先も、一人一人が「自分を生きていく」ことを信じ願っています。今でも私にとって、すべての子どもの存在は光であり、人生の喜びそのものです。

山岡フェロー教え子
T.M さん



公立中学校に配属されて1年目の際に私は山岡先生と会いました。山岡先生に出会う前は、挑戦してみたい事があっても勇気がでず行動に移す事ができませんでした。やったことのない事を挑戦するには勇気がある事です。しかし、中学3年生の時に山岡先生に出会い、挑戦してきた事や新任教員として頑張っている姿を見て、私は勇気を持って一歩踏み出そうという力を持つ事ができました。先生とともに中学生最後の生活を迎える事ができて本当によかったと今でも思っています。先生が中学卒業後も私の事を気にかけてくださっていて感謝しています。私も山岡先生のように生徒の一人ひとりの気持ち・個性を大切に小さな影響を与え、将来大きく羽ばたき堂々と輝いている生徒の姿が見たいと実感しました。



山岡 幸司フェロー
(3期・中学英語)

選択の先にある人生を自ら創れるように

大学院留学、政府系機関での勤務、NPOでの勤務など、紆余曲折ありながらフェローとなり、生徒たちと出会いました。人生では色々な分岐点があるけれど、その選択が「正解」だったかどうかは、その選択自体にあるのではなく、選択の先でどのように自分が生きていくかにあると思います。フェローシップの2年間でも、生徒が迷っている時は、そっと背中を押すようにしました。自分の選択を信じ、自分自身で良い人生を創ってほしいと願っています。

磯先生は将来の夢を見つけさせてくれた私の恩人です。私が二年生の時、演劇部の新しい顧問の先生としてやって来た磯先生。先生と一緒に初めて触れるミュージカルに取り組みました。私は先生の授業を受ける機会はありませんでしたが、放課後や長期休暇の間の長い時間を一緒に過ごさせて頂きました。明るくポジティブな先生と一緒にいた一年間は、今でも私の中で生きています。先生のおかげで演劇の道を選ぼうと思い、演劇が学べる高校へ進学しました。



磯フェロー教え子
S.K さん

磯 依里子フェロー
(3期・中学英語)



Live your life you love. Love your life your live!!

「一人一人が大切な存在であるということ、私という存在を通して全力で伝えたい」「自分の人生は、自分で決めるもの。誰しもが“生きたいように生きられる”ためのサポートを全力でしたい」そんな思いで挑んだ大阪での教師生活を振り返ってみると、私自身が子どもたちから、毎日教えてもらってばかりの2年間。子どもたちが、私にとっての先生でした。唯一「先」を「生きる」大人として、子どもたちに伝え続けてきたメッセージは、"Live your life you love. Love your life your live." 学校現場を離れてもなお、これを教え子たちに伝え続けるために、まずは私が全力で体現していきたいと思います。

松尾先生の授業はとても楽しく、一つの題材について様々な側面から話をしてくれ、授業以外の知識を付けることができたし、時々脱線する話もとても楽しく興味深く聞いていました。自分自身難しいところがあり、他人の言葉に過剰に反応してしまって喧嘩をしてしまうことがよくありましたが、そのたびに先生が間に入って何とかしてくれました。その時、「怒る気持ちはわかるけど、それを手を出すという形にしたら負けだよ」と教えてくれ、少しずつですが、手を出さないように心がけるようにしています。先生が僕たちのことを信じてくれていたし、今考えてみると僕たちそれぞれに合わせて声掛けをしてくださっていたと思います。たった1年と短い時間だったけど、松尾先生が僕たちの担任になってくれてとても良かったです。



松尾フェロー教え子
N.K さん

松尾 啓司フェロー
(4期・小学校)



ありのままの自分を好きに！

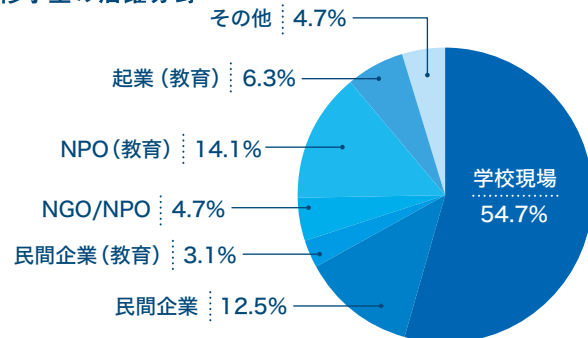
「プラスもマイナスも含めて、自分や自分の人生を好きになってほしい。」その願いをもって、教員をしていました。このメッセージを伝えるために、何度もみんなと話したことを覚えています。話すたびに「伝わってるかな？」と挫けそうになっても、みんなの輝きや可能性が、何度も僕を立ち上がらせてくれました。みんなの可能性は無限大で、みんな一人ひとりは本当に素敵だと、心から僕は思っています！みんなと出会えたことが、僕の一番の幸せです！

5

アラムナイ(修了生)の取り組み

学校現場で2年間、子どもたちと向き合ったアラムナイは、それぞれの課題意識やビジョンを持ち、様々なフィールドで活躍しています。Teach For Japanは、アラムナイの活動を支援することで、社会課題の解決を推進しています。

修了生の活躍分野



村松 良介 (5期・中学英語)
国際協力機構人間開発部
基礎教育グループ 専門嘱託

開発途上国の子どもたちが最低限の学力を身に付けられず、通学・進学を諦めてしまう「学びの危機」を解決すべく、教育支援に取り組んでいます。



渋谷 吉孝 (5期・小学校)
大阪学園大阪高等学校 / 高大接続総合ディレクター / 教育支援センター パートナースhip・ラボ主任 / ライフデザイン委員会

子どもの可能性を伸ばす、多様な学びの場の創造に挑戦中！



田中 綾乃 (3期・小学校)
福岡雙葉小学校 / グローバルコミュニケーションコース 4年生担任

目標は平和な世界の実現。グローバルシティズンを育てるために、日々奮闘中！



中田 佳珠美 (2期生・中学英語)
マレーシア人とシンガポール人の先生の採用、養成、研修をおこなう EC コーディネーター

マレーシアで、教員育成を通して、多くの子どもたちに学ぶことの楽しさを伝えることに日々力を注いでいます！



関口 寿子 (3期・小学校)
SDGs プロジェクトプランナー

子どもの未来のために、地球環境の大切さに気づき、教員を経てSDGsの実現に向けて活動中！



佐藤 瞬 (3期・小学校)
株式会社教育と探求社 / 学校部・開発部兼務

探求をする中で、世界と出会い直し、よりよい学び／教育を実感できる人が一人でも多くなることに挑戦中！



中島 直哉 (5期・小学校)
NPOカタリバ職員 / b-labスタッフ

中高生が放課後になんでもチャレンジできるユースセンターの運営をしています！学校を飛び出し「サードプレイス」から教育を考えています！



今野 千識 (2期・小学校)
NPO法人 Learnig for All
子ども支援事業部 拠点マネージャー

困難な環境から、自他ともに幸せを広げる一流リーダーを輩出！その子にとって一番大切な学びと育みが保障された地域づくりを推進！



西 真一郎 (1期・中学校英語)
レゴランド・ジャパン
Education / Assistant Manager

レゴのプログラミングやビルディングのワークショップを創作中！



小山 絢香 (4期・小学校)
放課後 NPO アフタースクール
ソーシャルデザインチーム所属

子どもたちの放課後の時間を豊かにするべく、企業の力を巻き込んでプログラムを企画、運営、実施！全国の放課後の時間で子どもたちが【好き！】を見つける！



大野 拓哉 (5期・小学校)
人材系企業 / 商品開発

子どもへの教育から大人への教育にシフトしましたが、教育を通して人の成長を後押しできるサービスを開発中！



篠田 啓介 (4期・小学校)
教育企業にて人材育成コンサルタント
株式会社リクメディア アドバイザー
子ども学びサポートきずな 教育アドバイザー

自ら考え、自分の人生を選びとることができる社会を目指し、教育領域及び人材開発の領域で挑戦中！

アラムナイが様々なことに挑戦中！

6

その他の事業

Teach For Japanのインターンシップであるキャンパスアンバサダーや、プロボノとして携わってくださる方が運営するEduHubなど、様々なコミュニティが広がっています。

CAMPUS AMBASSADOR

キャンパスアンバサダー

note にて
イベント情報・イベントレポートを更新中



キャンパスアンバサダー・プログラムとは、Teach For Japan インターンシップの総称で、教育やキャリアについて様々な角度から考え、プロジェクト活動を通じて、企画力やリーダーシップを高める3ヶ月間のプログラムです。これまでに150名以上の大学生がキャンパス・アンバサダー(CA)として活動し、修了生はTeach For Japanフェローや教員をはじめ、教育系民間企業やNPO法人など様々な形で教育に携わっています。

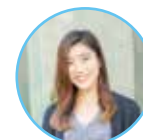
47名
CA参加人数

16回
イベント数

イベント申し込み人数
356人

プログラム参加者
大学名一例
(50音順)

京都大学大学院、筑波大学大学院、東京学芸大学大学院、九州大学、千葉大学、クイーンズランド大学、ライデン大学、早稲田大学、慶應義塾大学、津田塾大学、立命館アジア太平洋大学、国際基督教大学



下平 涼葉さん (慶應義塾大学3年)

大学の授業で貧困に苦しむ子どもの存在を知り、TFJ創設者である松田さんの本に出会いました。CAの活動を始めてからは、子どもの居場所に関するイベントを主催した他、CAセミナーや教育に関心を持つ同世代の仲間との対話を通して自分自身の知識や考えを深めて参りました。3ヶ月間の活動後は、もっとTFJに関わりたいという思いから、インターンとしてSNSの運用にも携わらせて頂いています。今後は活動を通して得た繋がりが広がった世界を活かし、教育現場で自らの存在価値を発揮したいです。



山 凌汰さん (九州大学2年)

CAの活動では、主に進路について考えるのに情報が必要としている大学生向けに、教育業界で活躍している方々のお話を届けるというイベントを開催してきました。この活動を通じて、イベント運営に必要な経験を得ることができ、自分が必要だと考える高校生向けのイベントの企画実行やその他の活動にも繋がったと思っております。今後もここでの経験をもとに、教育に幅広く関わっていける人材を目指していきたいと思っています。



EduHubとは、「教育の未来に向けて活動する全ての人にとっての実験の場」として設立したコミュニティです。教育に思いを持ったメンバーが集い、2020年8月に立ち上げました。教育に関心がある方であれば、どんなでもご参加いただくことができます。

約45名
イベント
参加人数

EduHub コミュニティの属性

年齢層は、大学生以下15%・20代30%・30代前半が一番多く60代の方までいらっしゃいます。職種は、学生・学校教員・行政・教育系の職業の方から、民間企業の方まで幅広く広がっています。

374名
コミュニティ
参加人数



岡嶋 隼也さん (総合商社勤務)

EduHubはTFJの持つ知名度やリソースを活用する事ができ、教育関係者のみならず多様なバックグラウンドを持つ方々にご参加頂いているコミュニティです。TFJが連携している地方自治体やフェロー・アラムナイの方々、Teach For All加盟の他国と共に企画を行う事も可能な為、アイデア次第では民間企業で働きながらも深く教育に携わる機会を創れることがEduHubの魅力となります。EduHubでの活動を通じて「教員でなくても、教育業界で働いていなくても、教育を変えられる」様なスケールの大きな事例を作り上げていきたいです。



安井 瑞季さん (株式会社リクルートライフスタイル勤務)

学生時代にTFJでインターンを経験したことをきっかけに、何かしらの形で教育に関わり続けたいという気持ちから、本業と並行して活動できるプロボノとしてTFJに参画し、EduHubの立ち上げから携わっています。現在は、チームのリーダーとして企画の進行管理やコミュニティメンバーとのパイプ役として活動しています。すでに教育現場で働いている人から、ほんの少し興味がある、という人まで、バラエティーのある関わり方ができる環境を少しずつ整えていき、「Hub」として教育現場に間接的にでも思いや熱を届けられたらと思っています！

7 自治体連携の取り組み

教員免許の有無に関わらず、臨時免許や特別免許の施策を活用して情熱ある人材を受け入れ、新たな学校創りを目指す自治体と連携しています。2020年には、フェローシップ・プログラムを軸とした教育分野における包括連携協定の締結をした自治体もあります。Teach For Japanと自治体が相互にリソースを提供することでフェローの赴任に留まらない新しい連携を各地で創出していきます。

VOICE 自治体の皆様からの声

福岡県教育庁 教育総務部長 上田 哲子様

『子どもが大好きな様子が伝わり、愛情をもって子どもに関わる姿は、学校全体に良い影響を与えてくれます。』『担任として、やる気をもって、学級経営に当たっている様子が見られます。』『教師として働きたいという強い意志をもち、熱意をもって子どもたちの指導にあたってくれます。』これらは、フェローの派遣先の学校から聞かれる生の声です。このようにフェローが学校で活躍している姿は、本県が教師に求める人物像である「子どもが憧れる人間的魅力」、「子どもに対する広く深い愛情」、「教師としての強い使命感」の一端を表しているように思います。こうした姿を生み出す背景には、Teach For Japanの赴任前研修の充実があるのではないかと考えます。教室・地域・社会を変えるチェンジメーカーとしての人材育成、自己成長力、コミュニケーション力、現場理解、授業力、人権感覚、学級経営力などの教師に求められる資質・能力の具体化、そして、それらを育成するための充実した研修は、まさに特筆に値します。今後も、Teach For Japanから本県へ愛情と使命感あふれる人材の派遣を期待しています。



東京都港区教育委員会 事務局学校教育部
教育人事企画課 指導主事 富樫 学様

港区は、公立小・中学校において多くの外国籍児童・生徒が学んでおり、国際社会に対応する教育を推進しています。このような中、現在、本区とTFJは、教育の機会の多様化を図るために、「イングリッシュサポートコース」(外国籍児童に英語による日本の教育を提供する港区独自の取組)で連携をしています。具体的には、イングリッシュサポートコースにおいて、通訳や取り出し授業を行う区費の講師(イングリッシュサポートティーチャー)として、英語力が高く、外国人児童を地域の学校で受け入れるための支援に意欲のある方に御勤務いただき、協働しています。また、複数の小・中学校でフェローの皆さんを受け入れ、現場実習を実施することなどにも取り組み、連携の強化を図っているところです。TFJは、港区に本部を置くNPOですので、フェローの受け入れだけではなく、研修や教員とアラムナイとの交流など、港区の教員の資質向上につながる取組の実現についても期待をしています。以上のように、TFJとの協働を充実させていくことで、中原CEOの目指しておられる「社会を構成する人を育てる学校の教室から世界を変えたい」という思いの実現とチェンジメーカーの育成につながり、より良い社会の形成に寄与することができるよう願っております。

OUTCOME

過去8年間で115人のフェローが赴任しました。

2021年は、過去最高の12都道府県の自治体に54人が赴任します。



福岡県飯塚市教育委員会 教育長 武井 政一様

飯塚市教育委員会では、未来の飯塚市を担う本物志向・未来志向の人づくりのために、「かしこく」「やさしく」「たくましく」子どもの育成をめざしています。私たちは、「すべての子どもが素晴らしい教育を受けることができる社会の実現を目指す。」というTFJの将来展望と「子どもの可能性を信じる。教えるのではなく、いっしょに学び、ハードルを一つずつ取り除き、半歩先を照らす。…」という志の高いメッセージに大いに賛同しました。そして、この理念のもと、TFJの先生方が、飯塚市の先生方とともに子どもたちの教育活動をすすめることができれば、めざす子ども像を達成できると考えました。平成27年度に3人のフェローを受け入れて以来、これまでに16人の先生方を派遣していただいております。令和2年度は6人の先生方が教壇に立っています。先生方の授業では、「わからせてあげたい。」「できるようにしたい。」という熱い思いが伝わってきます。受入れ先の校長先生方からは、「高い学識経験や海外体験が子どもたちのモデルになる。」「子どもの見方・接し方、仕事に対する姿勢が素晴らしい。」「ずっと本校で活躍してもらいたい。」等の言葉をいただいています。6人の先生方を含む飯塚市のすべての先生方は、「すべては子どもたちとその未来のために」を合言葉に、子どもたちに深い愛情を注いでおり、まさに教室から世界を変えるという思いで取り組んでいただいています。これからも、教育に対する強い情熱をもったフェローの派遣を期待しています。



奈良県天理市立福住小学校校長 神元 聡様

私たちが教師になったばかりの学校は、周りを外堀と内堀で囲まれ一般社会とは一線を画して、教育が行われているいわゆる聖域でした。しかし、時代の流れと共に外堀が徐々に埋められ、現在にいたっては、内堀も、跡形もなく埋められています。コンプライアンスやアカウンタビリティという言葉が、教育界でも当たり前に使われるようになり、社会の規範がそのまま学校に適用されるようになりました。このような状況下において、学校で何よりも優先される教育資源は、人です。現在本校に赴任中のフェローは、長年にわたって民間の貿易部門で勤務されていた方ですが、学校特有の文化が蔓延する職員室に、新しい風を送り込んでくれています。英語教育(まなビューアやjolly phonics)はもとより、企業では当たり前のコーチングの手法など、新しい切り口で子どもたちと関わってくれています。教育は人なり。「TFJ」は人材の宝庫箱ですので、使わない手はないと思います。

MESSAGE Teach For Japanへの 応援メッセージ



教育研究家 妹尾 昌俊様

みなさんにとって理想の先生って、どんな人でしょうか？
いろいろな考え方があっていい

のですが、知的好奇心があり、自分の好きなことや社会課題に向き合っている先生っていいな、とぼくは思います。さて、学校や社会は、子どもたちにたいして、創造性や問題解決力、主体性などを求めるわけですが、学校の先生は創造的で豊かな毎日を送れているのでしょうか？教師自身が探究的な学びができていないで、教室で深い学びは進むでしょうか？TFJに期待するのは、先生たちの学びを広げ、深めていくことです。学校も教育行政も、もっと多様性を高めて、「いろんなヤツがいるから楽しい、おもしろい」という場になってほしいと思います。



株式会社 morichi
代表取締役 森本 千賀子様

「教室から世界を変える」という Teach For Japanの mission に強く共感し、SIP(ソーシャル

インベストメントパートナーズ)の理事という立場を超えて応援してまいりました。何よりキャリアディベロップメントという観点でも「フェローシッププログラム」を通じて①メタ認知力②柔軟性③コミュニケーション力④レジリエンス力⑤課題解決力といったVUCAの時代に必要なコンピテンシーが磨かれることを確信しています。今後もTFJから多くのチェンジメーカーが輩出され、フェロー経験者が教育現場と社会(事業会社)を接続する役割を担ってくれることを期待しています。



福岡大学 入江 誠剛様

「私たちは、TFJから派遣されて飯塚市で教員をしています」2017年秋、福岡市で開催したセミナーでのお二人のフェローとの出会いが、TFJを知ったきっかけです。「教員免許がないのに教員？」まずその事実に驚きました。しかし、派遣前の研修内容を知ることでその疑問は解けました。9か月に及ぶそれは、大学の教職課程に匹敵するものであり、実践力を身に付けるという点では、むしろそれ以上ではないかという印象でした。そして何より、教育に向かう情熱がとにかく凄い。それは冒頭で紹介したお二人にも言えることでした。それから3年後の2020年11月25日。私は、CEOの中原氏の講演を福岡大学の学生にオンライン配信するために新橋のTFJ事務所を訪問しました。チャットを通して次々に寄せられる中原氏への質問に学生の関心の高さを感じました。「教室から世界を変える」TFJの皆様の御活躍に今後も期待します。



哲学者・教育学者 苦野 一徳様

学校を、もっと“多様性がごちゃまぜのラーニングセンター”にしていきたい！学年や、障害のあるなしや、校種や、世代の違いなどにかかわらず、多様な人たちが、当たり前のように同じ学び場を共有し、必要に応じて関わり合いながら、さまざまなプロジェクトに打ち込んでいけるような。ずっと、そう考えながらさまざまな活動をしてきました。Teach For Japanさんは、多様なバックグラウンドを持った先生を学校現場に送り出すことで、そんな“ごちゃまぜ”を実現させる、頼もしい仲間だととても僭越ですが思っています。とにかく魅力的な方がいっぱい！これからも、お互いに支え合い、共に活動を続けていければと思っています。



英国オックスフォード大学 認定スタートアッププログラム
BUTTERFLY NETWORK COO/CFo 大竹 明子様

「いつか自分で学校を作りたいんですよ！」数年前、代表の中原さんが初対面の私に目を輝かせて語ってくださった夢です。自分の力で社会を変えられるという信念、きっと良い方向に向かうと思う前向きさ、さらにはビジョンに人を巻き込んでいく力を持たれた素晴らしいリーダーだなと思ったことを思い出します。近年ではソーシャルメディア露出、イベント回数、支援団体数など企業顔負けのKPI管理から、フェローの成長指標や肯定感といったインパクト測定にも注力されていて、その進化のスピードには驚かされてばかりです。こうした地道な努力も「教室から世界を変える！」という強い思いの表れという気がします。TFJの優れたフェローが日本全国で子どもたちにパワーを与え、やる気スイッチの入った元気な大人が増える日が目に浮かびます。TFJからは当分目が離せそうにありません！

マンスリーサポーターからの応援メッセージ

井上 光晴様

Teach For Japanは、日本の将来を作る教育という分野で、大きな問題に対してしっかりと問題を定義し、且つ解決の方法を提案および実行しているパワフルな団体です。その活動は、日本の未来を作ることにつながると思っています。代表の「当事者になることの重要性」という言葉に共感し、この問題解決の当事者である支援者になることを決めました。社会問題を解決しTeach For Japanがなくなるまで、応援し続けたいと考えております。

渡辺 紗絵様

「教室から世界を変える」というメッセージに感銘を受けました。いま、様々な団体様・企業様が日本の教育をより良くするために活動されていますが、一方で力を注ぐ場が公教育から少しずつ遠のいてしまっているようにも感じていました。その中で、日本全国の「教室」に優秀な人材を送り出し、新しい風を吹き込み続けているTFJ様の取り組みは、子どもたちだけでなく、学校まで含めた大きな変革をもたらすのではないかと心から期待しています。





Teach For All について

1990年に当時プリンストン大学の4年生だったウェンディ・コップ氏によって設立された教育NPO Teach For Americaのモデルを世界各国で展開するために設立されたグローバル組織です。現在は世界59カ国が加盟しており、Teach For JapanもTeach For All に所属し、ノウハウや情報の共有を行い、組織としての発展を続けています。また、世界中で蓄積されたノウハウや知見を教育現場へと提供していきます。

アジアパシフィックでのTFJのインパクト・今後の期待

2020年は世界中が多くの課題を抱えていたにもかかわらず、TFJは多くの刺激と思いやりの精神を、グローバルネットワークにもたらしてくれました。まず、CEOの中原さんのリーダーシップと有能なチームの働きにより、TFJはこれまでにない驚異的な成長とインパクトを出したことに、私たちは大いに刺激を受けました。さらに、TFJチームとそのアラムナイたちは、これまで以上に多くの時間、エネルギー、サポートをグローバルネットワークに与えてくれました。例えば、TFJから2人のアラムナイがネットワークコネクターとして、コミュニティの育成と世界中の教師を繋げる活動に取り組みました。また、2020年10月にはカンボジアとフィリピンと協働して、ファントレイジングを呼びかけるためのチャリティイベントを行いました。また、Teach For All 主催のグローバル・カンファレンスに貢献したり、アジア地域で開催されるイベントを、理事会メンバーと共に企画をしたりと、グローバルな貢献をしてきています。TFJのグローバルコミュニティへの多大な貢献と関わりに感謝すると共に、今後も日本および世界中の子どもたちのためにパートナーシップを強化し続けていけることを願っています。

Teach For All アジア・パシフィック地域 地域統括
エドナ・ノヴァク Edna Novak (Ms.)



GLOBAL NETWORK

ネットワークコネクターとは？

ネットワークコネクターは、23カ国から参加した 51名のアラムナイ（フェロー修了生）で構成されています。59カ国ある Teach For All のグローバルな繋がりを、より強めていくためにアラムナイが主導となり、現状の課題分析から、実際のプロジェクトの立ち上げまでを行います。具体的な取り組みとしては、グローバルな繋がりを活かした語学の交換学習や国境を越えた教室のストーリーのシェアなど、様々なプロジェクトが実行されています。



ネットワークコネクター / 株式会社 EventHub
磯 依里子さん (3期・中学校英語)

私は、フェロー時代から Teach For All のコミュニティの素晴らしさに圧倒されていました。それは、このコミュニティには自国の教育を良くするために、Teach For という選択肢をとった思いを持った仲間が溢れているからです。このコミュニティの輪がどんどん広がってけば、すべての子どもたちが素晴らしい教育を受けられる日が必ず来ると信じています。だからこそ、「このコミュニティを世界に広げよう！」という気持ちで参加しました。参加して改めて、各国から教育に想いのある人が集い、「それは、子どもたちにとってどうなの？」と子どもを主語に議論し、プロジェクトを進めていることに、心から世界を変えることができると感じています。



ネットワークコネクター / 教育と探求社
岡本 多永さん (5期・中学校英語)

私は、本気で「LOVE&PEACE」を信じています。一方で、どこか自分の居場所がないと孤独を感じる日々を経験してきました。そんなときに、TFAll のグローバルカンファレンスに参加して、「世界と繋がることの力」に衝撃を受けました。それからフェロー時代の教室でもメキシコのフェローと繋いで授業を行ったり、今働いている教育と探求社でも世界に無料で英語コンテンツをリリースしたりしています。ネットワークコネクターは「世界中の子どもたちを学びで繋いで孤独を救う」ための最短距離だと思っています！



コロナが学校現場にもたらした影響

西浦：忘れもしないのが、明日が卒業式の練習というタイミングだったこと。「休校になるかもしれない」という情報はあったけれど、できることをやろうと準備していたんですよ。そこに、休校という決定。

中原：子ども達に休校を伝えた瞬間、どんな反応でしたか？

西浦：子ども達もある程度予想していたようで、「やっぱりそうなんだ」という反応が多かったです。

中原：休校期間が年度を跨いで延長されたときの子ども達、学校の状況はどうだったのでしょうか？

西浦：年度が変わって最初の登校日は、担任が発表されて、手紙や課題を受け取って、すぐに下校でした。だから子ども達からしたら、新しいクラスのことや担任の先生のこと、これからの学校生活の見通しが立たないという不安があったと思います。そんな、顔を見れない、話せないというスタートの中で、配布する手紙に子ども達が安心できるようなメッセージを添えるなど、とにかく不安を取り除くための小さな工夫を先生方がされていたのがとても印象的でした。

教師に求められる在り方とは？

西浦：僕は大きく 3 つあると思います。一つは、教育基本法にある「人格の完成」を教師自身が目指すということです。もう一つは、学び続ける大人。学び続けて、成長し続けることは子ども達の 1 つのモデルである教師が意識しておきたい大切なことです。そして、問題を整理して、解決していく力、ときには周りから助けてもらいつつ。これは、教師だけではなくて多くの人に大事なことかなと思っています。

中原：僕は、すべての大人が子ども達にとって教育環境の一部だと捉えています。インターネットが普及したことで、SNS や YouTube などの大人の態度や発言に子ども達は簡単にアクセスできる。大人は知らず知らずのうちに、自身の態度や発言が子ども達に影響していることを認識することが大切だと思います。そして、子ども達の身近にいる教師には、様々な世の中の見解を正しく問う力が求められると思います。正しく問い、正直に伝える。また、日本において若い世代の死因トップは自殺です。教育の目的である「生きる力」とは真逆の事実。そう考えると、本質的に教育の在り方を見直す必要があると思います。しかし、現在は教育の在り方について否定的なメッセージが学校現場や教師に投げかけられ

特別対談！

Teach For Japan 代表理事 ×

～コロナの影響と教師に求められる在り方～ 現役小学校教員

世界中で私達の生活を变化させた新型コロナウイルスの感染拡大。学校現場でも、2020年2月27日に小中学校、高校、特別支援学校の臨時休業が決定され、3月2日から一斉に臨時休業となりました。その時の様子、これからの教師に求められる在り方を Teach For Japan 代表理事の中原健聡と元同僚で現役小学校教員西浦先生に伺いました。

る状況が多々ありますが、そうではなく、学校現場から社会へ子ども達と共に作り上げている日々を積極的に発信していく必要もあると痛感しています。

Teach For Japan への期待

西浦：コロナで休校になったときに TFJ が教員向けに開催したオンライン研修に参加しました。そこには、他の地域で働いている先生方、大学生や海外から参加している方など様々な参加者がいて、画面を通してでも教育への熱量を感じることができたのは大きな勇気になりました！また、他地域の先生方と会話する機会も貴重でした。TFJ は、教師だけではなく、大学生や企業、海外のネットワークを持っているので、それを学校現場と繋げてくれるような働きに、一人の教師としてすごく期待しています。

中原：ありがとうございます。僕らも、先生方と同じように試行錯誤の中でのチャレンジを日々行っています。重要なのは、教育を通じて、子ども達とよりよい社会を創りたいと思っているのは学校の先生だけでなく僕らも一緒ということ。今回、励みになるお言葉を頂いたので、今後も積極的にチャレンジしていきたいです！



対談動画はこちら▲

グローバルカンファレンス 2020 の様子

新型コロナウイルスに直面し、他に類をみない年にふさわしく、2020 年 Teach For All グローバルカンファレンスも新しい経験でいっぱいでした。初めてカンファレンスを完全オンラインで開催。初めて職員、フェロー(教師)、アラムナイ(修了生)、児童・生徒、同盟組織を含む Teach For All の全コミュニティがカンファレンスに参加。初めて世界の全時間帯で開催。そして、2,300人以上の参加者が集い、私たち Teach For All ネットワークが取り組む「不平等」の理解を深め、私たちが描く将来に向け前進するための新しい可能性について思索する貴重な機会となりました。カンファレンスでは、ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんと学生の対談や OECD の教育・スキル局長のアンドレアスさんと PISA についての対談など多くのことが議論されました。その中で、Teach For Japan CEO 中原とフェローの生徒が対談する場面もあり、世界各国から多岐にわたるステークホルダーによってこれまでにないカンファレンスを開催できました。



コロナ禍でのフェローの取り組み



情報教育担当として動画配信をサポート

公立小学校で情報教育担当をする見汐フェローは、臨時休校が決まった早期段階から、担任の先生方の動画配信をサポート。「学習動画はあくまで補完であり、学びを途切れさせないことが重要」という校長先生のリーダーシップのもと、学校ホームページに児童の学習意欲を高めるための動画をアップロードしました。児童が身近に感じることができる「担任の先生」が動画に出ることで、児童の心のケアにも繋がりました。さらに、動画視聴が難しい家庭にも学びを届けるために、Google フォームを活用したアンケート調査を実施し、動画をDVDにして配布することですべての児童の学びを支えるために尽力しました。



横のつながりを意識したオンライン授業を展開

公立中学校で理科を担当する太田フェローは、ミライシードや Google ドライブを活用したオンライン授業を実施。授業の導入では、学習に繋がる話をするなど生徒のモチベーションを高めつつ、クラス会議で生徒がいま抱えている悩みを解消する場を設けました。インプットをするときは、様々なコンテンツを提示して、生徒が自分のレベルに合ったものを選択して学習する学びの個別最適化を行い、各自で問題を作成することでアウトプットの機会を確保していきました。さらに、生徒が作成した問題に対して、生徒同士が「いいね」や「コメント」をできる仕組みを作っています。自ら問題を作ることで、生徒の学習意欲が高まり、お互いに評価し合うことで生徒同士の繋がりを実現することができました。

FINANCIAL STATEMENTS

財務諸表

令和2年度 活動計算書

(単位：円)

科目	金額	小計・合計
【A】 経常収益		
1 受取寄附金		45,616,824
受取寄附金	45,616,824	
2 受取助成金等		25,246,817
受取民間助成金	25,246,817	
3 事業収益		1,592,250
教育支援事業収益	1,592,250	
4 その他の収益		4,186,697
受取利息	479	
雑収入	4,186,218	
経常収益計		76,642,588
【B】 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		43,694,331
給料手当	37,782,465	
法定福利費	5,682,564	
通勤費	229,302	
(2) その他経費		20,049,694
荷造運賃	133,594	
広告宣伝費	6,517,468	
会議費	193,661	
会場費	391,828	
旅費交通費	3,972,569	
通信費	432,598	
消耗品費	17,019	
事務用品費	79,711	
新聞図書費	152,241	
印刷・製本費	16,494	
諸会費	26,500	
支払手数料	337,064	
賃借料	154,000	
租税公課	400	
支払報酬料	7,624,047	
雑費	500	
事業費計		63,744,025

2 管理費		
(1) 人件費		4,298,650
給料手当	3,210,976	
法定福利費	1,062,912	
通勤費	24,762	
(2) その他経費		9,109,666
福利厚生費	79,785	
荷造運賃	23,804	
広告宣伝費	39,336	
会議費	9,566	
会場費	1,540	
旅費交通費	600,496	
通信費	471,063	
消耗品費	513,621	
事務用品費	758,641	
水道光熱費	206,028	
印刷・製本費	50,296	
諸会費	35,000	
支払手数料	73,630	
支払リース料	495,000	
地代家賃	3,036,000	
租税公課	15,566	
支払報酬料	2,678,334	
雑費	21,960	
管理費計		13,408,316
経常費用計		77,152,341
当期経常増減額【A】－【B】・・・①		△ 509,753
【C】 経常外収益		
経常外収益計		0
【D】 経常外費用		
経常外費用計		0
当期経常外増減額【C】－【D】・・・②		0
税引前当期正味財産増減額 ①＋②・・・③		△ 509,753
法人税、住民税及び事業税・・・④		70,000
前期繰越正味財産額・・・⑤		54,384,560
次期繰越正味財産額 ③－④＋⑤		53,804,807

令和2年度 財産目録

(単位：円)

科目	金額	小計	合計
【A】 資産の部			
1 流動資産			57,347,344
現金預金		56,392,159	
普通預金 新生銀行 / 本店	14,445,191		
普通預金 みずほ銀行 / 渋谷中央支店	23,621		
普通預金 三井住友銀行 / 丸の内支店	37,608,266		
普通預金 三菱 UFJ 銀行 / 新橋支店	4,218,715		
普通預金 ゆうちょ銀行	96,366		
未収入金		457,909	
過年度 源泉所得税過納分	255,009		
年末調整還付未収分	192,900		
経費過払分等	10,000		
前払費用		497,276	
事務所家賃 (3年1月分)	253,000		
その他諸経費	244,276		
流動資産合計・・・①			57,347,344
2 固定資産			
(1) 有形固定資産		2	
器具備品			
Apple iMac	2		
(2) 投資その他の資産		80,000	
敷金			
タイムズ24	80,000		
固定資産合計・・・②			80,002
【A】 資産合計 ①＋②			57,427,346
【B-1】 負債の部			
1 流動負債			
未払金		3,189,566	
経費未払金 従業員立替	79,022		
経費未払金 社会保険料	2,231,806		
経費未払金 その他諸経費	878,738		
預り金		362,973	
源泉所得税	148,213		
住民税	104,300		
社会保険料	110,460		
未払法人税等		70,000	
令和2年12月期確定申告分	70,000		
流動負債合計・・・③			3,622,539
【B-1】 負債合計 ③			3,622,539
【B-2】 正味財産合計 【A】－【B-1】			53,804,807

令和2年度 貸借対照表

(単位：円)

科目	金額	小計・合計
【A】 資産の部		
1 流動資産		57,347,344
現金預金	56,392,159	
未収入金	457,909	
前払費用	497,276	
流動資産合計・・・①		57,347,344
2 固定資産		80,002
(1) 有形固定資産		2
器具備品	2	
(2) 投資その他の資産		80,000
敷金	80,000	
固定資産合計・・・②		80,002
【A】 資産合計 ①＋②		57,427,346
【B-1】 負債の部		
1 流動負債		3,622,539
未払金	3,189,566	
預り金	362,973	
未払法人税等	70,000	
流動負債合計・・・③		3,622,539
負債合計 ③		3,622,539
【B-2】 正味財産の部		
前期繰越正味財産額		54,384,560
当期正味財産増減額		△ 579,753
正味財産合計		53,804,807
【B】 負債及び正味財産合計 【B-1】＋【B-2】		57,427,346

SPECIAL THANKS

私たちの活動に、金銭的なご支援だけではなく、場所や知見のご提供など、さまざまな形でサポートいただいた皆さまです。改めまして、厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 IFAS
株式会社麻生キャリアサポート
国立大学法人大阪教育大学 天王寺キャンパス
学校法人大阪学園 大阪高等学校
奥矢倫知
港区立御成門小学校
カラビナテクノロジー株式会社
菊池義和
City Lab Tokyo
cenco
タイガーモブ株式会社
辻奈由巳
道休誠一郎
日本大学文理学部 百周年記念館アリーナ
FUN!STUDIO
株式会社ビジネスリファイン
港区教育委員会
Uipath 株式会社
株式会社 YOUTURN
北牧加代乃

※順不同・敬称略

DONORS & SUPPORTERS

ご支援いただいている皆さま

